

彙 報

会 長 梶 茂樹

——常任委員会——

2012 年度第 2 回常任委員会

日 時：2012年10月21日(日)11:00～16:00

場 所：日本言語学会事務局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：梶 茂樹(会長)、荻野綱男、窪菌晴夫、小林正人、坂本 勉、定延利之、田野村忠温、新田哲夫、町田 健、米田信子(以上常任委員)、吉田和彦(事務局長)

オブザーバー：林 徹(編集委員長)、藤代節(大会運営委員長)、酒井 弘(広報委員長)、加藤重広(夏期講座委員長)、内藤真帆、森 若葉(以上事務局委員)

[報告事項]

(1) 今後の大会開催予定について

- ・以下の予定が報告された。

第 145 回大会（2012 年秋季大会）：2012 年 11 月 24 日（土）～ 25 日（日），九州大学箱崎キャンパス（大会実行委員長：久保智之氏）

第 146 回大会（2013 年春季大会）：2013 年 6 月 15 日（土）～ 16 日（日），茨城大学（大会実行委員長：岡崎正男氏）

第 147 回大会（2013 年秋季大会）：2013 年 11 月（予定），神戸市外国語大学（大会実行委員長：武内紹人氏）

第 148 回大会（2014 年春季大会）：2014 年 6 月（予定），法政大学（大会実行委員長：尾谷昌則氏）

第 149 回大会（2014 年秋季大会）：2014 年 11 月（予定），愛媛大学（大会実行委員長：塚本秀樹氏）

(2) 各種委員会からの報告

- ・本彙報の各委員会の項目を参照。

(3) 日本言語学会論文賞選考小委員会の選考結果について

- ・論文賞選考小委員会からの推薦に基づい

て、2012 年度日本言語学会論文賞が以下のように決定したことが会長より報告された。

今野弘章「イ落ち：形と意味のインターフェイスの観点から」（『言語研究』141 号）

(4) 日本言語学会大会発表賞選考小委員会の選考結果について

- ・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて、第 144 回大会（2012 年 6 月）における大会発表賞が以下のように決定したことが会長より報告された。

儀利古幹雄「町名のアクセント：アクセントの平板化と言語内的要因」

青井隼人「宮古における「中舌母音」の音韻解釈」

大滝靖司「父称 Mac-/Mc- で始まる姓の借用語における促音化：つづり字と音節構造」

木山幸子・玉岡賀津雄・リヌス フェアドンスコット「終助詞の感受性に関する個人差：対人調整能力と性別の影響」

(5) 言語系学会連合について

言語学会選出の運営委員である窪菌晴夫氏から、つぎの報告があった。

- ・今年度は小林賢次氏（日本語学会会長）が運営委員長を務め、日本語学会が事務局を担当する。
- ・今年度の事業として、前年度に引き続き「ことばカフェ」を開催する。詳細は学会連合ホームページ（<http://www.nacos.com/gengoren/index.html>）を参照のこと。

(6) 外部団体の活動への協力について

- ・12 月 8 日～9 日に神奈川大学で開催される国際シンポジウム「二つのミンゾク学——多文化共生のための人類文化研究——」について、後援依頼が日本常民文化研究所所長佐野賢治氏からあり、メール会議によって常任委員会です承されたことが説明された。

(7) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について

- ・7 件の申請があり、申請理由が妥当と判断されたため、すべての申請を認めたこ

とが報告された。

(8) その他

- ・会費未納者について
会費未納者の状況について説明がなされた。

[審議事項]

(1) 日本言語学会論文賞の規程変更

- ・第3条第4項に含まれている「評議員会の承認を経て」という文言を削除することについてはかられた。

(2) 日本言語学会大会発表賞の規程変更

- ・第3条第4項に含まれている「評議員会の承認を経て」という文言を削除することについてはかられた。

(3) 大会における手話通訳者の手配について

- ・前回の大会では手話通訳者を会場に手配したが、この件について今後の言語学会としての対応についてはかられた。

(4) 『言語研究』掲載論文のWEB公開について

- ・刊行後1年を経た論文の学会ホームページでの一般公開(無償)の継続について、会員数の変動やバックナンバー販売推移などの総合的な分析結果に基づいて審議を行なった。

(5) 2013年度以降の科学研究費補助金研究成果公開促進費について

- ・平成25年度から国際情報発信強化の取組に対して助成されるようになる科学研究費補助金研究成果公開促進費の応募に向けて、計画調書の内容について審議した。

(6) その他

- ・CIPLの委員の交代について
来年に任期を終えるCIPLの現委員田窪行則氏の後任候補者についてはかられた。
- ・2013年度「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト」について
2013年度の募集要項と応募用紙を近日中に学会ホームページに掲載することが了承された。

——評議員会——

2012年度第2回評議員会

日時：11月24日(土) 10:30～12:30

場所：九州大学(箱崎キャンパス)文学部棟4階会議室

出席者：梶 茂樹(会長)、加藤重広、佐々木冠、小泉政利、後藤 斉、上野善道、遠藤喜雄、大津由紀雄、風間伸次郎、窪蘭晴夫、坂原 茂、砂川有里子、西村義樹、長谷川信子、林 徹、福井直樹、北野浩章、佐久間淳一、清水克正、玉岡賀津雄、町田 健、工藤真由美、定延利之、佐藤昭裕、庄垣内正弘、沈 力、田窪行則、田野村忠温、野田尚史、藤代 節、益岡隆志、吉田和彦、吉田 豊、桐生和幸、酒井 弘、塚本秀樹、和田 学、青木博史、上山あゆみ、江口 正、久保智之、坂本 勉(以上評議員41名)

委任状：26名

オブザーバー：井上 優、金水 敏(以上会計監査委員)、岡崎正男(次回大会実行委員長)、内藤真帆、森 若葉(以上事務局委員)

議事に先立ち、9月26日に逝去された西田龍雄顧問(元会長)のご冥福を祈り、黙祷が行われた。また、会長より開催校である九州大学に対する謝意が表された後、大会実行委員長の久保智之氏より挨拶があった。

[報告事項]

(1) 役員・組織・任期について

- ・現在の組織・役員・任期が資料によって確認された。

(2) 今後の大会開催予定について

- ・以下の予定が報告された。

第146回大会(2013年春季大会)：2013年6月15日(土)～16日(日)、茨城大学(大会実行委員長：岡崎正男氏)

第147回大会(2013年秋季大会)：2013年11月23日(土)～24日(日)、神戸市外国語大学(大会実行委員長：武

内紹介氏)

第148回大会(2014年春季大会):2014年6月(予定),法政大学(大会実行委員長:尾谷昌則氏)

第149回大会(2014年秋季大会):2014年11月(予定),愛媛大学(大会実行委員長:塚本秀樹氏)

(3) 各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 日本言語学会論文賞選考小委員会の選考結果について

・論文賞選考小委員会からの推薦に基づいて、2012年度日本言語学会論文賞が以下のように決定したことが会長より報告された。

今野弘章「イ落ち:形と意味のインターフェイスの観点から」(『言語研究』141号)

(5) 日本言語学会大会発表賞選考小委員会の選考結果について

・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて、第144回大会(2012年6月)における大会発表賞が以下のように決定したことが会長より報告された。

儀利古幹雄「町名のアクセント:アクセントの平板化と言語内的要因」

青井隼人「宮古における「中舌母音」の音韻解釈」

大滝靖司「父称 Mac-/Mc- で始まる姓の借用語における促音化:つづり字と音節構造」

木山幸子・玉岡賀津雄・リヌス フェアドンスコット「終助詞の感受性に関する個人差:対人調整能力と性別の影響」

(6) 言語学会連合について

言語学会選出の運営委員である窪菌晴夫氏から、つぎの報告があった。

・今年度は小林賢次氏(日本語学会会長)が運営委員長を務め、日本語学会が事務局を担当する。

・今年度の事業として、前年度に引き続き「ことばカフェ」を開催する。詳細は学会連合ホームページ(<http://www.nacos.com/gengoren/index.html>)を参照のこと。

(7) 外部団体の活動への協力について

・12月8日~9日に神奈川大学で開催される国際シンポジウム「二つのミンゾク学——多文化共生のための人類文化研究——」について、後援依頼が日本常民文化研究所長佐野賢治氏からあり、常任委員会です承されたことが報告された。

(8) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について

・7件の申請があり、申請理由が妥当と判断されたため、すべての申請を認めたことが報告された。

(9) 大会における手話通訳者の手配について

・第145回大会における手話通訳者の手配に対して、会員から謝意が示されたことが報告された。

(10) その他

・言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトについて

2013年度の募集要項と応募用紙が学会ホームページに掲載されていることが報告され、積極的な応募に対する要望が示された。

・会員名簿について

昨年度刊行できなかった会員名簿の作成状況について、近日中に完成するとの報告が前事務局長の井上優氏からなされた。

[審議事項]

(1) 日本言語学会論文賞の規程変更

・第3条第4項に含まれている「評議員会の承認を経て」という文言を削除することが承認された。

(2) 日本言語学会大会発表賞の規程変更

・第3条第4項に含まれている「評議員会の承認を経て」という文言を削除することが承認された。

(3) 大会における手話通訳者の手配について

・今後、会員から手話通訳者の手配について要望があった場合は、言語学会として対応することが承認された。また、大会プログラムに、車椅子の手配や保育室の

案内と並んで、手話通訳に関する「お知らせ」を掲載することも了承された。

(4) 『言語研究』掲載論文のWEB公開について

・刊行後1年を経た論文の学会ホームページでの一般公開(無償)が、会員数の変動やバックナンバー販売推移に影響を及ぼしていないという報告が常任委員の田野村忠温氏から資料に基づきなされ、今後公開を継続していくことが承認された。

(5) 2013年度以降の科学研究費補助金研究成果公開促進費について

・平成25年度以降の研究成果公開促進費にかかわる大幅な変更点と11月に日本学術振興会に提出した計画調書の内容について吉田和彦事務局長から説明がありました。

(6) その他

・CIPLの委員の交代について
来年に任期を終えるCIPLの現委員田窪行則氏の後任として町田健氏を推薦することが承認された。

——大会運営委員会——

2012年度第2回大会運営委員会

日時: 2012年9月11日

場所: 九州大学(箱崎キャンパス)教育学部会議室

出席者: 藤代 節(大会運営委員長), 青木博史, 河内一博, 斎藤倫明, 芝垣亮介, 張 麟声, 野村益寛, 本間 猛, 宮本陽一, 米田信子(以上, 大会運営委員), 久保智之(大会実行委員長), 坂本 勉, 上山あゆみ(以上, 大会実行委員)

[報告事項]

(1) 大会運営委員会から選出される大会発表賞選考小委員の交代について報告がなされた。

(2) 第145回大会(九州大学)の準備状況について報告された。

[審議事項]

(1) 第145回大会の応募要旨審査を行った。審査の結果, 口頭発表56件(応募96件。うち2件辞退), ポスター発表5件(応募6件), ワークショップ6件(応募6件)を採択した。

(2) プログラムの編成と司会者の人選をおこなった。司会依頼の方針として, なるべく開催地域で分野の近い方をお願いすることにした。

(3) 応募要旨審査時に生じたいくつかの問題(ポスター発表のあり方, 口頭発表時の使用言語と予稿集などの使用言語とのあいだの不一致についてなど)について, 今後検討を進めることにした。

[大会実行委員会との打ち合わせ]

(1) 会場校の準備状況の説明を受け, 各種会場, 懇親会運営, 使用機器, プログラム掲載情報などについて検討, 確認を行い, 会場予定の学舎, 講義室などを見学した。

——広報委員会——

学会ホームページ

・学会執行部の交代を受け, 会長挨拶, 学会の基本方針, 各種委員会からのメッセージなど関連する情報のアップデートを, 日本語ページから順次進めた。

・学会諸規程の変更, 学会関連情報(被災者に対する会費の免除, 言語の多様性に関する啓蒙プロジェクトの募集, 論文賞・大会発表賞の決定, 公募情報, 研究会情報など), 研究大会の開催に関する諸情報(シンポジウム情報, プログラム, 発表要旨, ポスターなど)を随時学会ホームページに掲載した。

——夏期講座委員会——

・夏期講座2012を東京大学(本郷キャンパス)で2012年8月20日から25日まで実施した(実行委員長 西村義樹氏)。

・今回試行として行った特別講演はおおむね

好評で次回以降も開催を検討することになった。

- ・夏期講座 2012 の決算が確定した。参加者は 268 名であった。
- ・夏期講座 2014 は、名古屋大学にて佐久間淳一委員を実行委員長として開催する計画である。

——小委員会——

論文賞選考小委員会

- ・2012 年度の日本言語学会論文賞の受賞候補論文を選考し(2012 年 6 月 30 日(土), 九州大学), 会長への推薦を行なった。

大会発表賞選考小委員会

- ・第 144 回大会(東京外国語大学)での日本言語学会大会発表賞の受賞候補発表を選考し(2012 年 7 月 15 日(日), 慶応義塾大学), 会長への推薦を行った。

——事務局——

学会ホームページ

- ・学会ホームページと J-Stage において公開されている『言語研究』バックナンバー(1-99 号)の目次の確認を行い, 不整合な箇所の修正を依頼した。

その他

- ・昨年度刊行できなかった会員名簿が 2012 年 12 月 31 日に発行された。

第 145 回大会

期日 2012 年 11 月 24 日 (土)・11 月 25 日 (日)

会場 九州大学

公開シンポジウム 11 月 25 日 (日) 13:20 ~ 16:40

司会 田窪 行則

「文構造はどこまで意味を表しているのか」 企画 田窪 行則・上山あゆみ

日本語モーダル述語文における構造と意味の対応とズレ 竹沢 幸一

統語意味論：構造と意味の対応とズレ 上山あゆみ

述語の格体制からみた構造と意味の対応とズレ 定延 利之

口頭発表

—第 1 日 (11 月 24 日 (土)) 13:00 ~ 17:20—

◦ A 会場

- | | | | |
|-------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| (A 1) | 13:00 ~ | 形容詞の獲得における事物の典型的な属性と非典型的な属性の区別 | 朴 備脛
小泉 政利 |
| (A 2) | 13:35 ~ | 日本語を母語とする子供の語彙使役と統語使役の習得について | 山腰 京子
三浦 香織
山崎香緒里 |
| (A 3) | 14:15 ~ | 母音に関する音韻素性間の非対称性 | 大沼 仁美 |
| (A 4) | 14:50 ~ | The role of “basic variant” in subsidiary stress assignment for words with variant stress patterns | LIU Sha |
| (A 5) | 15:40 ~ | 単純語を基体として持つ短縮語形成と韻律構造 | 橋本 大樹 |
| (A 6) | 16:15 ~ | カクチケル語における韻律境界標識と音韻構造 | 那須川訓也
八杉 佳穂
小泉 政利 |
| (A 7) | 16:50 ~ | 英語における頭子音結合の序列と聞こえ度階層の相関について | 桑本 裕二 |

◦ B 会場

- | | | | |
|-------|---------|--------------------------------|----------------|
| (B 1) | 13:00 ~ | スリランカ手話における過去テンス表示 | 加納 満 |
| (B 2) | 13:35 ~ | 日本手話の達成動詞の完了表現に関する一考察 | 原田なをみ
高山智恵子 |
| (B 3) | 14:15 ~ | 沖縄首里方言の他動詞派生接尾辞と使役動詞派生接尾辞 | 當山 奈那 |
| (B 4) | 14:50 ~ | 南琉球八重山黒島方言における主題標識の二重使用の機能について | 原田走一郎 |
| (B 5) | 15:40 ~ | 上甕島瀬上方言における清濁の対立 | 黒木 邦彦 |
| (B 6) | 16:15 ~ | 石川県七尾市能登島別所方言の句音調に関する考察 | 平子 達也 |
| (B 7) | 16:50 ~ | 三重県尾鷲市方言の後部 3 拍複合名詞アクセントについて | 平田 秀 |

◦ C 会場

- | | | | |
|-------|---------|-----------------------------|-------|
| (C 1) | 13:00 ~ | バスク語レクンベリ方言の再帰所有形と主語 | 石塚 政行 |
| (C 2) | 13:35 ~ | タガログ語の相互構文 | 長屋 尚典 |
| (C 3) | 14:15 ~ | シベ語の動詞 o-「なる」の語用論的機能 | 児倉 徳和 |
| (C 4) | 14:50 ~ | サハ語 (ヤクート語) の勧誘形における「双数」の解釈 | 江畑 冬生 |

- (C 5) 15:40 ~ Event structure and agreement violations in Icelandic resultatives Einar Andreas HELGASON
- (C 6) 16:15 ~ Words *Čelovek* 'Man' and *Štuka* 'Item' as Numeral Classifiers in Russian Ksenia GOTO
- (C 7) 16:50 ~ マヤ語の台湾先住民（高砂族）語群からの起源 大西 耕二
 ◦D会場
- (D 1) 13:00 ~ アイヌ語十勝方言における証拠性と叙述類型 高橋 靖以
- (D 2) 13:35 ~ 琉球宮古島野原方言の間接的エヴィデンシャルティ 狩俣 繁久
- (D 3) 14:15 ~ On a Korean evidential marker *-te-* in monologue-interrogatives (A comparison with *'-tela / -tenka'*) Chun Hong PARK
- (D 4) 14:50 ~ 韓国語の複雑述語とモジュール形態論 和田 学
- (D 5) 15:40 ~ 日中両言語の擬音語の意味的特定性 游 韋倫
 一音の発生源を中心に—
- (D 6) 16:15 ~ 中国語関係語の処理過程についての再検討 翟 勇
 備瀬 優
 坂本 勉
- (D 7) 16:50 ~ Stylised South Asian Japanese: a contact variety in the Japanese language Rika YAMASHITA
- E会場
- (E 1) 13:00 ~ 理由副詞類の生成位置とコントロール節の修飾について 藤井友比呂
 瀧田 健介
- (E 2) 13:35 ~ 併合とラベル付けを巡る覚え書き 後藤 亘
- (E 3) 14:15 ~ 英語の演算子不定詞節について 西前 明
- (E 4) 14:50 ~ 右枝節点繰上げ：削除分析と多重支配分析 木村 宣美
- (E 5) 15:40 ~ 日本語の主語位置—優位性効果からの考察— 水口 学
- (E 6) 16:15 ~ Dative Subject and Nominative Object Constructions in Naha Ryukyuan Kunio KINJO
- (E 7) 16:50 ~ 中国語の遊離数量詞構文の構造 郭 楊
- F会場
- (F 1) 13:00 ~ 日本語の多重主語構文に対するカートグラフィーの観点からの分析 山田 敏幸
- (F 2) 13:35 ~ Feature Transmission and Long Distance Agreement in Japanese and Tsez Hajime TAKEUCHI
- (F 3) 14:15 ~ ドイツ語の優位効果消失の条件であるスクランプリング移動 山本 将司
- (F 4) 14:50 ~ 素性継承からの倒置への接近 谷川 晋一
- (F 5) 15:40 ~ On the distribution of the reflexive pronoun *yen/ban* in modern Mongolian Lina BAO
 Megumi HASEBE
- (F 6) 16:15 ~ The genitive case in modern Ulster Irish Hideki MAKI
 Dónall P. Ó BAOILL
- (F 7) 16:50 ~ Another instance of idiolectal variations in modern Japanese: Long distance genitive case licensing Megumi HASEBE
 Hideki MAKI

◦ G 会場

- (G 1) 13:00 ~ 「自己」動詞構文の構造と意味
一再帰性と分離不可能所有構文一
西垣内泰介
阿部雄一郎
日高 俊夫
- (G 2) 13:35 ~ Negative forms with the thematically-adjusted affixal stem /raN/ Hiroki KOGA
- (G 3) 14:15 ~ Linking Morpheme in Recursive Compounds Makiko MUKAI
- (G 4) 14:50 ~ ゲルマン語強変化動詞および過去現在動詞 IV, V 類に見られる形態的差異について: Schumacher (2005) 論考の批判的考察と形態的混交説からの提案 田中 俊也
- (G 5) 15:40 ~ ムラブリ語における 1.5 音節語の膨張 伊藤 雄馬
- (G 6) 16:15 ~ モンゴル語の母音調和—外来語を用いた分析— 植田 尚樹
- (G 7) 16:50 ~ 西夏語の否定接頭辞の音変化について 荒川慎太郎

◦ H 会場

- (H 1) 13:00 ~ 語彙的多義性と項の具現化 工藤 和也
- (H 2) 13:35 ~ 「青い目をしている」文の拘束主題分析 平川 八尋
- (H 3) 14:15 ~ 古代日本語における係助詞ソ(ゾ)の出現傾向について 勝又 隆
- (H 4) 14:50 ~ 限界性 (Telicity) —日本語における動詞・名詞間の相互作用に関する考察 張 楚榮
- (H 5) 15:40 ~ 日本語語彙的複合動詞の生産性と二つの動詞の意味関係 由本 陽子
- (H 6) 16:15 ~ フレームに基づく日本語の V+V 型複合動詞の意味形成 陳 奕廷
- (H 7) 16:50 ~ 「V テイク」の意味と派生について 日高 俊夫
新井 文人

ワークショップ

—第2日 (11月25日(日)) 10:00 ~ 12:00—

ワークショップ1 (A 会場)

- 「脳波から観た言語理解研究」 企画・司会 坂本 勉
コメンテーター 諏訪園秀吾
- 脳の言語情報処理を診断する—ERPで観る否定極性項目の認可 備瀬 優
- 言語要素の統合に関わる ERP 成分「P600」 安永 大地
- ERPから観るオンライン言語理解過程における言語情報間の相互作用について 大石 衡聴

ワークショップ2 (D 会場)

- 「オノマトベと言語理論: 統語と意味の接点から」 企画・司会 秋田 喜美
- オノマトベの形態統語的実現に関するフレーム意味論的一般化 秋田 喜美
- オノマトベの語彙的特異性と項構造の拡張 臼杵 岳
- 役割指示文法における構文: 日本語擬態語動詞からの一考察 虎谷紀世子
- 日本語オノマトベの有声/無声の対立における音象徴と他動性 大関 麻衣

ワークショップ3 (E 会場)

- 「スペインの諸言語における借用語」 企画・司会 福寫 教隆
 「西製英語」に関する一考察 福寫 教隆
 カタロニア語における英語からの借用語について 長谷川 信弥
 ガリシア語におけるカステイーリャ語の借用：語彙面 浅香 武和
 のカステラニスモ
 バスク語アスペイティア方言における、スペイン語から借用された自動詞と se 動詞の扱いについて 吉田 浩美

ワークショップ4 (F 会場)

- 「北ヨーロッパおよびバルト海周辺地域の諸言語における逆使役について」
 企画・司会 佐久間 淳一
 コメンテーター 佐々木 冠
 アイスランド語における逆使役 入江 浩司
 リトアニア語における逆使役 櫻井 映子
 フィンランド語における逆使役 佐久間 淳一

ワークショップ5 (G 会場)

- 「アクセント・トーンの中和」 企画・司会 窪 蘭 晴夫
 コメンテーター 上野 善道
 鹿児島方言におけるアクセントの中和 窪 蘭 晴夫
 長崎方言におけるアクセントの中和 松浦 年男
 アクセントの式の中和—中央式アクセントと垂井式アクセントの中間アクセント— 新田 哲夫
 中井幸比古

ワークショップ6 (H 会場)

- 「現代形態理論と日本語の活用における諸問題：企画・司会 田川 拓海
 音便・不規則形・迂言的活用」
 分散形態論による現代日本語の不規則活用の分析： 田川 拓海
 形態統語環境と異形態
 寺村秀夫による活用表の再考 大島デイヴィッド義和
 —「タ系語尾」の位置づけについて
 膠着型言語の屈折形態論と Word Grammar 吉村 大樹
 迂言的活用形から見る日本語動詞形態のパラダイム基 乙黒 亮
 盤分析

ポスター発表

—第2日 (11月25日(日)) 12:00～13:00 (共通講義棟) —

- 東村山市方言の複合動詞のアクセント 高山林太郎
 日本語とアイヌ語の受動構文に見られる働きかけの種類に関する一考察 FREGUJA Fulvio
 韓国語の文末形式「-kes-ita」の文法的意味の分化と分割 呉 守鎮
 堀江 薫
 現代中国語の剰余否定と語彙の関係の再検討 姚 碧玉
 ベトナム語における機能辞 *ci* の特徴と条件表現の関連性 ダン ティ ホンゴック

◇退 会

国内通常会員： 76 名
国内維持会員： 1 名
国内学生会員： 69 名
在外通常会員： 13 名
在外学生会員： 8 名
国内団体会員： 1 件



◇本学会の委員（現評議員）、編集委員長を務められた堀井令以氏は、2013年3月10日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。